

# 組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	温暖化・里山対策室
職	室長
氏名	道下 博之

<b>組織の使命・役割</b>	<b>何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か</b>
<p>地球温暖化問題は地球規模の課題であると同時に、県民一人ひとりの暮らしと密接に関連している身近な課題でもあることから、県民、事業者、行政(国、県、市町)が一体となり、温室効果ガスの排出抑制に向けた取組を強化し、県内全域に普及していく必要がある。</p> <p>また、人の手が加わることにより、生きものにやさしい自然環境が維持されるという里山里海の本来の特性を踏まえ、県民、企業、NPOなどの多様な主体の参画による里山里海づくりの推進を通じ、多様な生きものが生息・生育する、いのちにあふれた里山里海を未来に継承し、人と自然が共生する持続可能な社会の構築を目指す。</p>	



<b>組織の目標</b>	<b>使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か</b>
<b>(定性的目標)</b>	<b>何をどのような状態にしたいか</b>
<p>① 県民、事業者、行政等のあらゆる主体が、地球温暖化防止に向けた具体的な行動に取り組む。</p> <p>② 地域住民や行政だけでなく、都市住民やNPO、企業など、多様な主体が参画する新しい里山里海づくりを推進するための仕組みづくりや支援などの取組を推進する。(多様な主体の参画による新しい里山里海づくり)</p> <p>③ 県民が生物多様性や里山里海から得られる恵みについて理解し、これらに配慮した生活を送ることにつながるよう、身近な自然である里山里海をテーマとしたイベント等を通じた普及啓発や里山里海での体験学習の機会の提供などを推進する。(生物多様性の恵みに対する理解の浸透)</p>	

<b>(定量的目標)</b>	<b>具体的な指標、目標値を設定する</b>				
<b>目標とする成果指標</b>	<b>現行値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値の設定根拠(他県との比較など)</b>
①温室効果ガス排出量増減率(H25比)	▲ 13.3 %	H30 年度	▲ 30 %	R12 年度	石川県環境総合計画
②いしかわ版里山づくりISO認証団体数	318 団体	R2 年度	400 団体	R7 年度	石川県環境総合計画
③グリーンウェイブ参加団体数(※)	32 団体	R元 年度	33 団体	R3 年度	(R2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止)

(※)グリーンウェイブ: 生物多様性に関する認識を広め、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進することを目的に、国連の生物多様性条約事務局が呼びかけを行い、国際生物多様性の日(5月22日)の午前10時に、世界各地の青少年の手でそれぞれの学校の敷地などに植樹等を実施する運動



<b>令和3年度に重点的に取り組むべき課題</b>	<b>左記の具体的な内容を記載する</b>
①県民による温室効果ガスの排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域、学校での省エネ・省資源の取り組みの推進(いしかわ版環境ISOの普及、エコチケット事業など)</li> <li>・住宅の省エネ化の推進(エコ住宅アドバイザーの認定など)</li> </ul>
①事業者等による温室効果ガスの排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業エコ化の促進(事業者/工場・施設版環境ISO、エコデザイン賞、エコドライブ推進事業所の認定など)</li> </ul>
②里山里海づくりへの多様な主体の参画を促進するための制度や取組の推進	<p>企業、NPO等の多様な主体の参画を促進するため、県が里山保全活動等を認証し、活動を支援するとともに、生物多様性に関する理解を進めるため、学校教育等での里山学習や里山里海をテーマとしたイベント等による普及啓発を進める。</p>
③生物多様性の恵みに対する理解の浸透	<p>生物多様性や里山里海の恵みの理解を進めるため、学校教育等での里山学習や里山里海をテーマとしたイベント等による普及啓発を進める。</p>